

内戦、大地震…海外で医療支援

AMDAの三宅医師

10年間の軌跡出版

世界の紛争地や被災地で医療支援を続けている、国際医療NGO「AMDA」（本部・岡山市）の医師三宅和久さん（41）が、長年の活動の記録をまとめた「AMDA緊急救援活動せよ!!」AMDA緊急救援10年間の軌跡（吉備人出版）を出版した。国内では考えられないようなトラブルや失敗、被災者との交流などの実体験が、医師の立場から描かれている。難民支援のノウハウもふんだんに盛り込まれており、海外でのボランティアを目指す人へ提言の書ともなっている。

ボランティアへ提言も

福岡市出身の三宅さんは、岡山大学医学部を卒業後、病院勤務の傍ら、91年からAMDAに参加。ルワンダや旧ユーゴスラビアの内戦、台湾やイン

ド西部の大地震などに駆けつけ、負傷者の治療に携わってきた。

万能ナイフでやけどをした子どもを腕を手術した。救援の現場では活動がなかなか理解されないこともある。

95年のロシア・サハリ州の大地震で訪れた病院では、当初は「ここにも医者がいるのに、何をしに来たんだ」と冷たく

対応されたが、活動を終えて病院を去る時には、ロシア人医師から「日本の友人たちの善意には感謝している」と言われるまでになっていた。

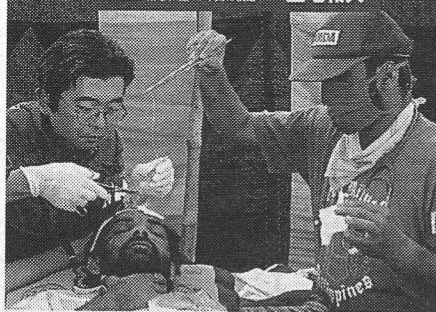
三宅さんは、ミャンマーの人に鍼灸を指導するため、間もなく現地へ向かう。「この本で緊急

救援の仕事を理解して、興味を持つ人が、もっと増えてほしい」と話している。
四六判、235頁。1470円（税込み）で、うち100円がAMDAの活動費として寄付される。

緊急救援 出せよ!!

AMDA緊急救援10年間の軌跡

三宅和久



吉備人出版

三宅和久医師の「AMDA緊急救援活動せよ!!」AMDA緊急救援10年間の軌跡